

平成 24 年度

事業報告及び一般会計収支計算書



社会福祉法人 四万十市社会福祉協議会

ちくじ

*平成24年度 事業報告	・・・1-2
*平成24年度 一般会計資金収支概要	・・・29
資金収支計算書	・・・31
事業活動収支計算書	・・・34
貸借対照表	・・・37
財産目録	・・・38
*平成24年度 公益事業特別会計四万十市	
社会福祉センター資金収支計算書	・・・41
貸借対照表	・・・47
財産目録	・・・48
*監事監査報告書	・・・50

平成24年度 事業報告（概 要）

社会福祉法人 四万十市社会福祉協議会

現在の社会経済状況は、好転の兆しはまだ弱く先の見えにくい状態の中で、急速な高齢化と少子化・核家族化及び単身化により「孤独」「孤立」等を含め福祉の問題はすべての市民の共通的な課題となっており、公助のみに依存することなく、住民自らが地域課題に取り組み、共に支え合う地域社会づくりの必要性とそれに向けた活動が重要となってきております。

四万十市を取り巻く環境は、上記の状況と同様であり地域の相互扶助機能が弱体化しており、これまでの集落機能の維持が困難な地区も出てきており、社会福祉協議会としてはこの状況を少しでも緩和できるような取組が必要となっております。

このような状況の中、平成24年度から四万十市が始めた「健康・福祉地域推進事業」及び「あったかふれあいセンター事業」を推進するため地域福祉コーディネーターを2名配置して、地域の課題や生活ニーズへの対応・新たな支え合いの仕組みづくりを目的として関係機関と連携しながら事業に取り組みました。社協職員と福祉事務所のケースワーカー等と協働して、通称ゴミ屋敷の一斉清掃なども行うなど社協らしい取組みを行いました。また、市内の中学生を対象に東日本大地震の被災地訪問事業を行い、地元の中学生との交流・老人福祉施設へ訪問など、実際の災害の大きさや恐ろしさの体験しその事業の成果を「ふくし健康まつり」で参加した中学生に報告をしてもらい、多くの参加者から感銘を受けました。更に事後学習も行い、近く起きるといわれている南海大地震に備えた学習にも取り組みました。

四万十市地域福祉活動計画も、2年目となり評価検討委員会で24年度の評価と併せて、25年度への一部方向修正なども行い、「人と人がつながる笑顔あふれる四万十市」の実現に向けて、地域住民や関係機関と連携協働

しながら地域福祉の推進に努めました。

以下、平成24年度の事業計画の重点目標に沿って報告します。

重点目標

- ① 地域福祉の推進
- ② 総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進
- ③ ボランティアセンター等の充実と福祉教育の推進
- ④ 介護保険事業等在宅福祉サービスの整備
- ⑤ 住民参加による福祉のまちづくりの実現の取り組みと組織の基盤整備

①地域福祉の推進
健康・福祉地域推進、あったかふれあいセンター事業(法人運営経理区分)〈職員2名〉

《 市補助金収入1,893,000円 市受託金収入6,277,000円 その他の受託金60,000円 雑収入704,000円
経理区分間繰入金収入833,246円 決算額 9,767,246円 》

今年度より、中村地域2か所のあったかふれあいセンターに地域福祉コーディネーターとして職員2名を配置し、あったかふれあいセンターを拠点として地域住民のニーズ発見や個別訪問を実施した。また、四万十市主幹の健康福祉地域推進事業(委員会の設立や各事業の推進・支援)と旧市街地(中村39地区)を一括して社協が中村地域健康福祉委員会の委託を受け事業を積極的に実施し、一定の成果を得た。

アルメリア

	24年	25年	26年	27年
事業所等訪問	147			
個別訪問	199			
会議等	26			
研修会等	14			
関係機関等調整等	10			
その他	37			
小計	433			

愛ハピネス

	24年	25年	26年	27年
事業所等訪問	152			
個別訪問	269			
会議等	45			
研修会等	26			
関係機関等調整等	85			
その他	61			
小計	638			

健康・福祉地域推進事業

	24年	25年	26年	27年
設立関係	109			
介護予防関係	50			
関係機関調整等	37			
その他	59			
小計	255			
合計	688			

健康・福祉地域推進事業

	24年	25年	26年	27年
設立関係	73			
介護予防関係	37			
関係機関調整等	21			
その他	23			
小計	154			
合計	792			

①地域福祉の推進

福祉活動の推進(共同募金配分金経理区分)〈職員2名〉

《高齢者と障害者の生きがい健康づくり支援事業 会費収入 60,000円 共同募金配分金 250,000円 決算額 310,000円 》

《福祉活動事業 会費収入 100,000円 共同募金配分金 100,000円 決算額 200,000円 》

今年度取り組んだ事業「高齢者と障害者の生きがいと健康づくり支援事業」では、高齢や障害のためできなくなったことを乗り越え、宿泊や一日の研修をはじめSST研修、書道教室、絵手紙教室等を開催、また傾聴ボランティアの養成を行い「心に寄り添う傾聴」を学んだ。

生きがい教室では、5つの教室が老人クラブの活動として移行し、7つの教室それぞれが独自性を持って活動を展開し、生きがいづくりと介護予防、健康づくり、仲間づくりに大きな成果があった。

11月に開催した社会福祉大会では、宇和島徳洲会病院の万波誠医師を講師にお迎えし、「病氣腎移植」についての講演があった。いつも患者に寄り添い命と向き合う万波先生が「真実を話したくて来ました」と真摯に話され、参加者全員深い感銘を受けた。

4月から始まった市の事業である「健康福祉地域推進事業」に協力し、地域に出向いた。特に「介護予防」の効果をあげること、地域が自立してこの事業を推進できるための講習会も入れながら実施。サロンに出ることで、サロンに来ない人の問題や、来ている人からの地域の情報を得て、今社協が何をすべきか常に問いながら個別支援へとつなげていった。

地域の中にある様々な問題、ひきこもり、心の病氣、虐待や生活苦、認知症や介護問題等については、関係機関と連携をとりながら解決へと向かうよう個別に支援していった。この最近では終末期の生活をどう過ごすかの問題を抱えた相談もあり、きめの細かい支援が必要になっている。

「NPOぴーす」や「いちいの郷」とも常に連携し、活動を共に進めていった。これからも手をとるあい、住民の問題解決に向け活動

・サークル等支援 要約筆記サークル「赤とんぼ」

24時間テレビ募金活動に協力

・ボランティア活動団体支援 JA「こだま会」 「やすらぎの会」

・西土佐ボランティア連絡協議会 10グループ加入

事業名	内 容				
	教室名	場所	回数	人数	講師・指導者
生きがい教室	俳句教室	総合福祉センター	12	72名	山本巖
	短歌教室	総合福祉センター	4	22名	植田馨
	川柳教室	総合福祉センター	4	26名	小笠原望
	手話教室	総合福祉センター	10	42名	川村泉
	編み物教室	総合福祉センター	11	109名	岡山福見
	秋桜クラブ	ふれあいホール	12	156名	篠田順子
	和太鼓教室	ふれあいホール	23	141名	篠田義男
介護予防教室	介護予防教室	各地域、いちいの郷等	20	309名	米津小巻、岡崎俊子、芝伸悟 他
集いの場にて学びの場提供	出前法律相談	総合福祉センター	1	16名	弁護士
	心に添う在宅介護	総合福祉センター	1	23名	小笠原望
	障害者の交通安全	総合福祉センター	1	12名	中村警察署
	しまんとAIを学ぶ	奈路福祉センター	2	14名	四万十市
防災頭巾講習会	防災頭巾講習会	西土佐地域内	4	41名	
障害者の生きがいと健康づくり支援事業	SST研修	総合福祉センター	6	71名	宇和島病院
	書道	総合福祉センター	11	114名	吉岡郡子
	一日研修	高知市、土佐清水市 他	4	54名	
	絵手紙教室	いちいの郷	2	40名	西川満壽代
	宿泊研修	香川県	1	16名	
	傾聴ボラ養成講座	総合福祉センター	5	71名	あおぞら 西川祐
西土佐地域社会福祉大会	学校発表、講演	ふれあいホール	1	550名	万波誠医師等
健康福祉地域推進事業に協力	介護予防、障害者高齢者生きがい交流事業への協力	各地域の集会所	180	28地区	
個別支援	個別支援	個人宅等			別紙のとおり

①地域福祉の推進

法人運営(法人運営経理区分)

西土佐支所において、従来行ってきた事業及び各種団体等の会議等の状況は、以下のとおりである。

月	日	曜	開催名称	場所	人数
4	10	火	やすらぎの会役員会	総合福祉センター	4
	17	火	いちいの郷サテライトに協力	藤ノ川集会所	7
	19	木	こだま会総会	農協西土佐支所	1
5	11	金	やすらぎの会総会	福祉センター	
	11	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	18	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	24	木	日本福祉大学とのヒヤリング	福祉センター	3
	24	木	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
6	1	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	8	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	10	日	かわせみ20周年祝賀会	かわせみ	1
	10	日	日赤防災訓練	宿毛市	1
	15	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	20	水	小地域ケア会議	藤ノ川集会所	
	20	水	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	28	木	ぴーす開所式	総合福祉センター	
	29	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
7	6	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	10	火	あったかふれあいセンター職員研修	中村	1
	12	木	川ガキ楽校打合せ会	四万十楽舎	1
	13	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	28	土	地域福祉実践セミナー	土佐清水市	
8	17	金	中山間あったか座談会	窪川	1
	24	金	西土佐地域社会福祉大会実行委員会	総合福祉センター	12
9	7	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	8	土	川ガキ楽校	四万十楽舎	1
	21	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	28	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27

月	日	曜	開催名称	場所	人数
10	5	金	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	11	木	西土佐中学校和太鼓指導	ふれあいホール	27
	24	水	西土佐地域審議会	西土佐総合支所	1
	28	日	西土佐地域じんけんフェスティバル	ふれあいホール	1
11	11	日	西土佐地域社会福祉大会	ふれあいホール	
	15	木	西土佐地域審議会	西土佐総合支所	1
1	21	月	いちいの郷運営推進協議会	いちいの郷	1
3	5	火	やすらぎの会視察研修	中村	1

①地域福祉の推進

中村地域配食サービス事業 (共同募金配分金経理区分)

〈パート1名 調理ボランティア10名 配食ボランティア15名〉

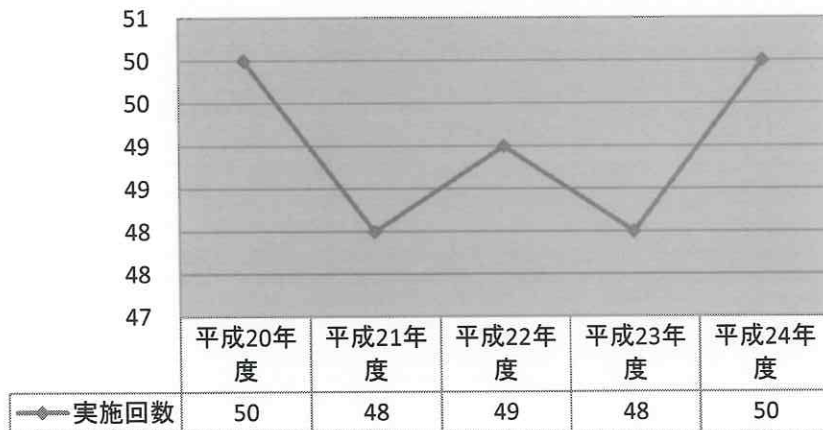
《会費収入 50,000円 市補助金 705,000円 共同募金配分金 1,141,032円 利用者負担額 1,167,500円 決算額 3,063,532円》

75歳以上の在宅の一人暮らしの高齢者や重度の障害者世帯に対し、毎週水曜日にボランティアの協力を得て、安否確認を目的に配食サービスを実施している。

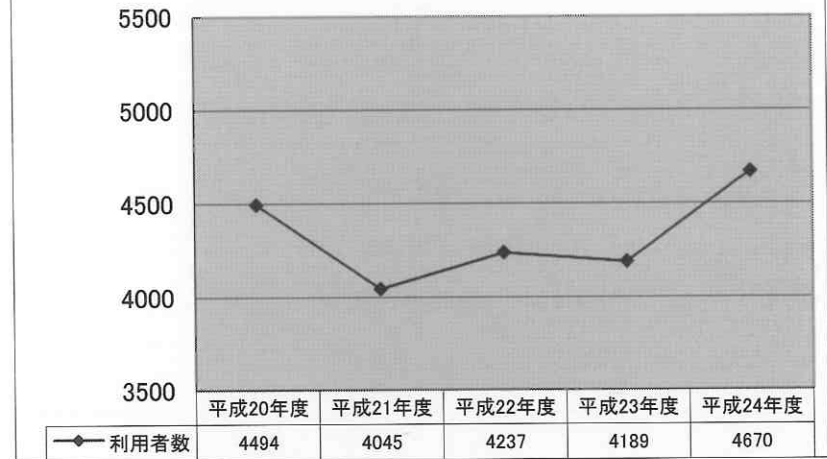
今年度は調理ボランティア10名の方が都合で辞められ困っていましたが、社協だよりで募集し12名の方が新たにボランティアとして参加していただいた。

6

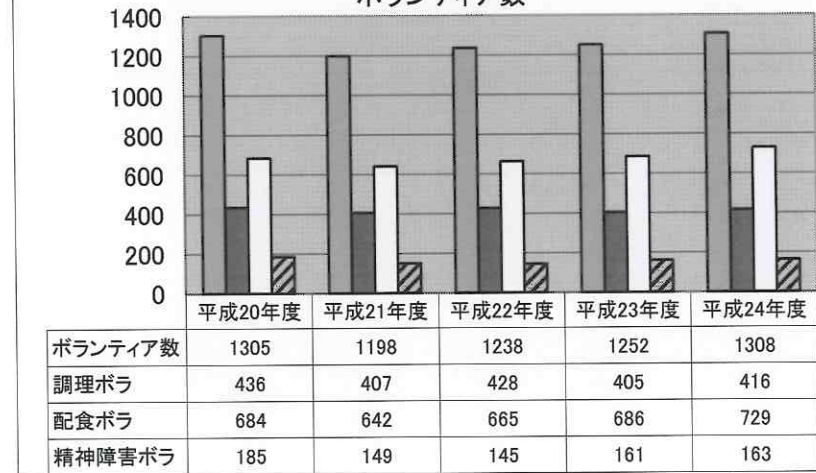
実施回数



利用者数



ボランティア数

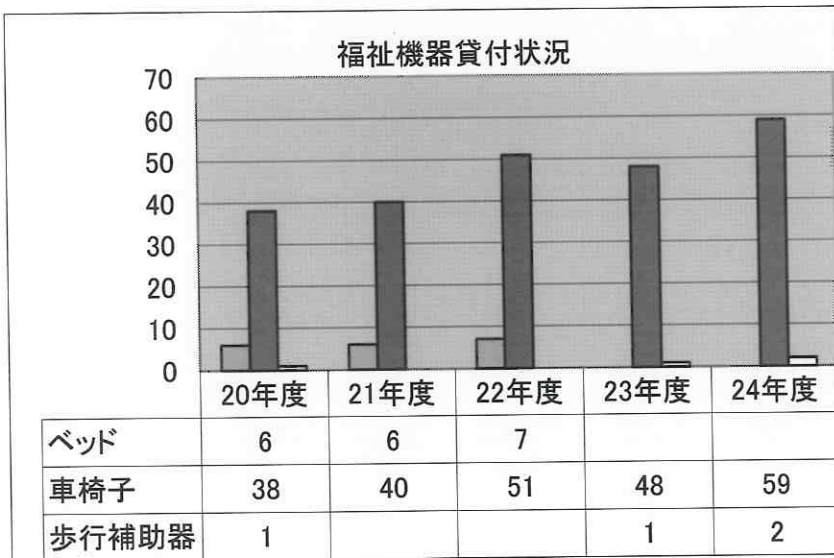


①地域福祉の推進

福祉機器貸付事業

身体機能の低下した障害者や高齢者等の生活支援の為、介護用ベッドや車椅子等を一定期間無料で貸出し、日常生活の利便を図り、生活の質の向上と併せて介護者の負担軽減に努めた。

福祉機器貸付状況

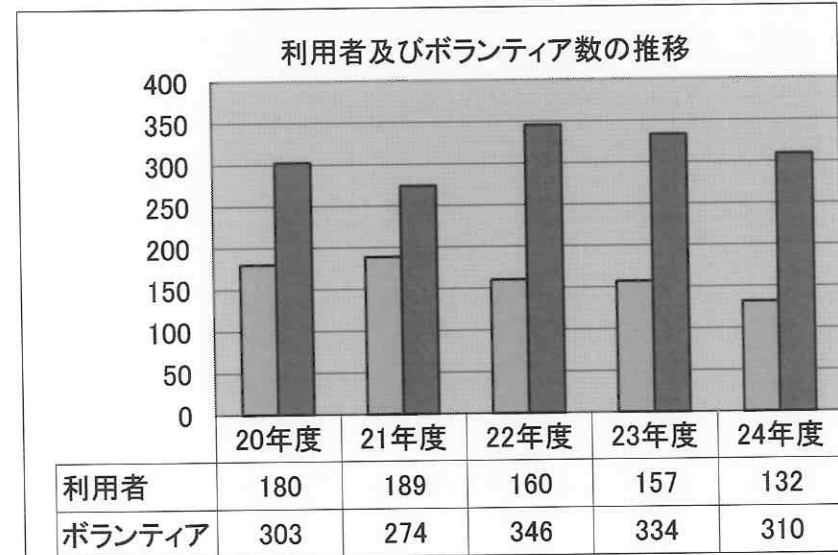


朗読サービス事業(法人運営経理区分)

《 共同募金配分金事業決算額 44,000円 》

朗読ボランティアの協力により、情報不足になりがちな視覚に障害のある方々等に、毎月市広報・社協だよりをテープに録音して送付し、日常生活に必要な情報の共有化を図った。尚、最近カセットテープの生産がされなくなっており、CD若しくはMD等の媒体で対応する場合、ハード面の整備と利用者の機器の状況などの調査等が必要であり、今後の課題となっている。

利用者及びボランティア数の推移



②総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

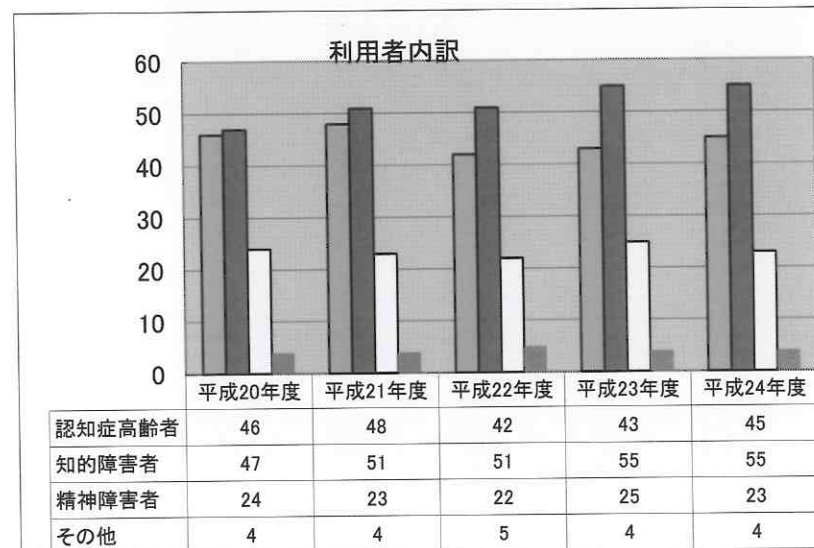
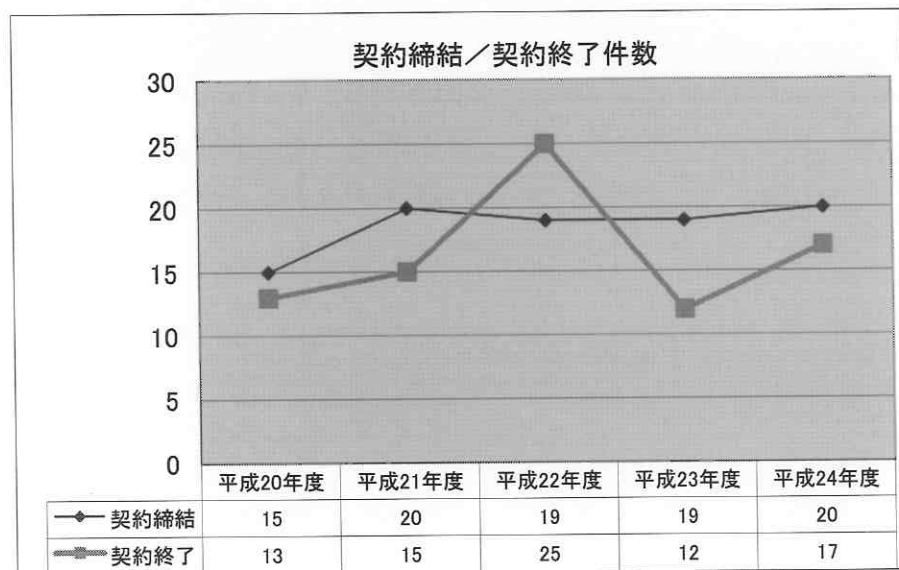
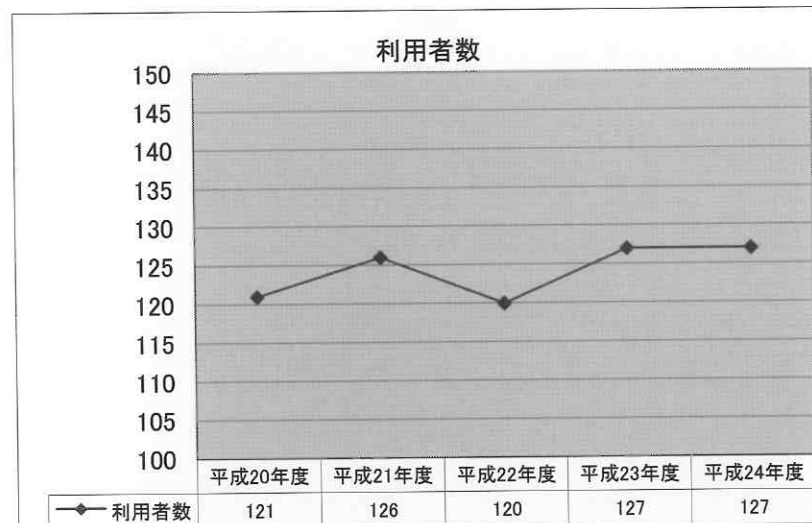
福祉サービス利用援助事業（福祉サービス利用援助事業経理区分）〈職員2名〉

《 県社協受託金 10,425,500円 利用料 898,000円 経理区分間繰入金 2,096,000円 決算額 13,419,500円 》

福祉サービスの利用や金銭管理など日常生活に必要なことについて、自分一人で判断することが難しくなっている高齢者や障害者の方が、安心・安定した生活が送れるよう幡多地域の基幹的社協として支援してきたがH25年度の各市町村への体制移行に伴い市外の利用者については契約終了の手続きを行った。

専門員2名、生活支援員31名（四万十市8名、宿毛市7名、土佐清水市9名、大月町3名、黒潮町4名、三原村0名）体制にて実施。

- ・ 新規契約件数 20名
- ・ 契約終了者数 17名
- ・ 年度末利用者数 127名



②総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

ふれあい相談センター事業（法人運営経理区分）

《 会費収入 30,000円 市補助金 139,000円 共同募金配分金 220,000円 決算額 389,000円 》

一般相談	毎週 月～金曜日	午前 8 時30分～午後 5 時15分実施	(四万十市社会福祉センター 本所)
法律相談	月/2回 第 1・3 水曜日	午後 1 時30分～午後 3 時30分実施	(四万十市社会福祉センター 本所)
支所相談	毎週 月～金曜日	午前 8 時30分～午後 5 時15分実施	(四万十市総合福祉センター 支所)

来所や電話による相談で、解決に至ったケースは1/4程度であり、問題が複雑多様化しており関係機関につなぐケースが多かった。特に重篤なケースについては、あったかふれあいセンター事業の中で配置している地域福祉コーディネーターが個別訪問を行い問題解決に向け、他の機関と連携しながら事業を行った。

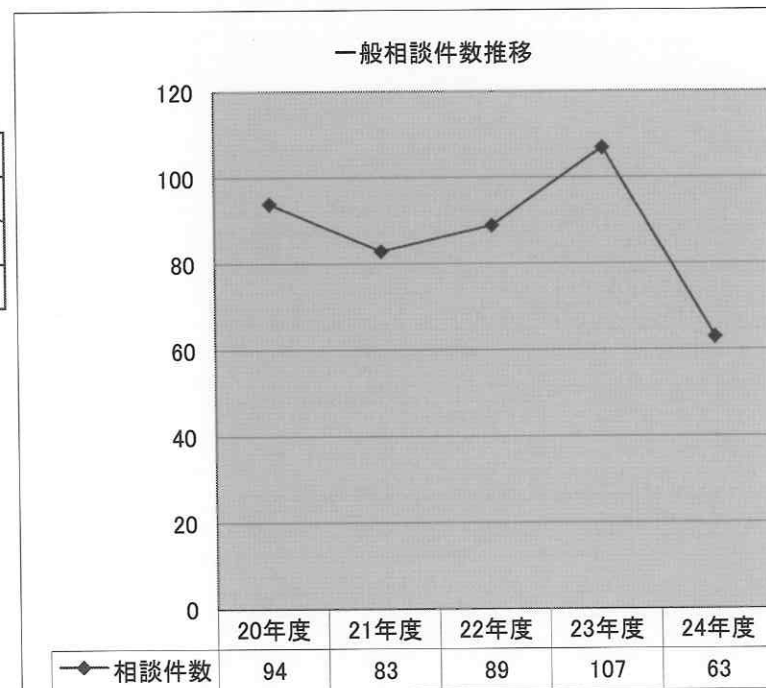
※前年度比較して相談件数が減少しているのは、実績の取り方を変更したためで個別支援や個別訪問で対応したケースは別でカウントしています。

項目別一般相談件数推移

20年度			21年度			22年度			23年度		
1	金銭問題	19	1	金銭問題	16	1	生活問題	24	1	生活問題	21
2	財産問題	15	2	人権問題	9	2	金銭問題	9	2	家族問題	13
3	家族問題	10	3	家族問題	9	3	医療問題	6	3	精神・衛生問題	12

24年度		
1	生活問題	23
2	精神・衛生問題	18
3	金銭問題	15

*** 法律相談 件数 63件（3名の弁護士が対応）**



②総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進
ふれあい相談・個別支援事業(法人運営経理区分)〈職員2名〉

平成24年度個別支援実績報告書(西土佐支所)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者数(延べ人数)	7	5	7	5	4	5	4	5	4	3	2	6	57
訪問回数(延べ件数)	11	3	6	6	3	5	4	4	4	5	2	6	59
電話対応(延べ件数)	11	5	22	3	3	3	1	1	1	3	1	3	57
事務所対応(延べ件数)	1				1			2					4
他機関		2	4		1	1					1		9
解決	1	1	1	1	1	1						2	8

★平成24年度 個別支援対象者 25名

支援の内容等	ひきこもり	心の病気	脳梗塞 排泄等	介護問題	終末期の生活	生活苦	金銭の使い方	認知症	サロンとの関係	虐待	障害	ごみ問題	その他
対象者	2	6	6	2	3	3	2	2	3	1	3	1	1

②総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

小口生活資金貸付事業(小口資金貸付事業経理区分)

《 小口資金貸付事業決算額 250,000円 》

低所得者等に対し、短期の生活資金の貸付と相談援助を行うことにより、生活の安定を図ることができるよう努めた。

年2回の督促と併せて、長期滞納者に対する個別の償還指導を自宅に訪問し行った結果、月々少額ずつ償還されるようになった。前年度よりも、生活困窮者が増加傾向にあり、生活保護の繋ぎとしてほとんどのケースを生活福祉資金の緊急小口制度で対応した。

※ 資産の状況 (平成25年3月31日)

・預金残高 6,920,360円

※ 貸付等の状況

・貸付額 955,000円(8件)

・貸付残額 130,000円

・相談件数 10件

・貸付件数 3件

・償還終了件数 3件

・延滞利子免除件数 1件(4,254円)

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	前年度との比較 H23-H24
貸付総件数	16	19	19	11	8	-3
貸付総額	2,035,000	2,265,000	2,255,000	1,405,000	955,000	-450,000
当年度貸付件数	7	8	6	2	3	1
当年度貸付額	630,000	730,000	550,000	200,000	250,000	50,000
償還完了件数	5	6	10	6	3	-3
債権放棄件数	—	—	—	—	—	—
償還済額	1,496,000	1,553,000	1,923,385	1,263,831	846,000	-417,831
当年度償還額	779,000	557,000	984,385	439,831	284,000	-155,831
内(延利収入)	—	54,000	49,385	1,831	21,000	19,169
年度末貸付元金額	1,535,000	1,705,000	1,205,000	705,000	800,000	95,000
年度末貸付件数	11	13	9	5	5	0
未償還額	539,000	766,000	381,000	143,000	130,000	-13,000
延滞利子額	535,039	369,473	349,839	291,331	288,594	-2,737
年度末残額(滞納含む)	1,074,039	1,135,473	730,839	434,331	418,594	-15,737

生活福祉資金貸付事業(生活福祉資金貸付事業経理区分)

《 県社協受託事業決算額 3,239,053円 》

低所得者等に対し資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより経済的自立、生活意欲の助長促進並びに社会参加の促進を図り安定した生活を送れるようにすることを目的としている。

相談件数は昨年度に比べ倍増したが、相談件数に比べ申請まで至らないケースがほとんどで、相談件数の約1割も満たなかった。また、申請のほとんどは、生活保護申請の受給までのつなぎ資金がほとんどであった。

【平成24年度貸付等の状況】

* 問合せ、相談件数 454件

* 申請件数・・・34件(合計9,250,000円)

* 貸付件数・・・33件(合計9,210,000円)

(内訳)

教育支援資金 3件 6,060,000円
 福祉費 2件 1,805,000円
 緊急小口資金 28件 1,265,000円
 緊急小口特例資金 1件 80,000円

②総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

福祉人材バンク事業（福祉人材バンク経理区分）

〈職員1名兼務〉

《 県社協受託金 3,734,000円 市補助金収入 1,980,000円 雑収入 880,820円 決算額 6,594,820円 》

幡多6市町村を管轄区域として、求職登録者を希望する求人に応じて福祉の職場へと繋いだ。地理的な利便性を考慮し宿毛市・土佐清水市・黒潮町へ年間9回の移動相談を実施し、移動相談日に合わせて施設・事業所へ求人の開拓及び紹介者定着のためのフォローを目的に訪問した。四万十市においては平日常時窓口での相談受付と、毎月第4日曜日に日曜日相談も開催し登録者の確保と、求人情報の提供を行った。県福祉人材センター、安芸市福祉人材バンクと合同のふくし就職フェアを8月・11月・1月に開催し述べ379名の参加があった。資格取得方法の相談や問い合わせには講習先の情報等の提供を行い、また、福祉人材養成事業としてスキルアップを目的に資格取得支援として各模擬試験と介護支援専門員の受験対策講座を開催した。

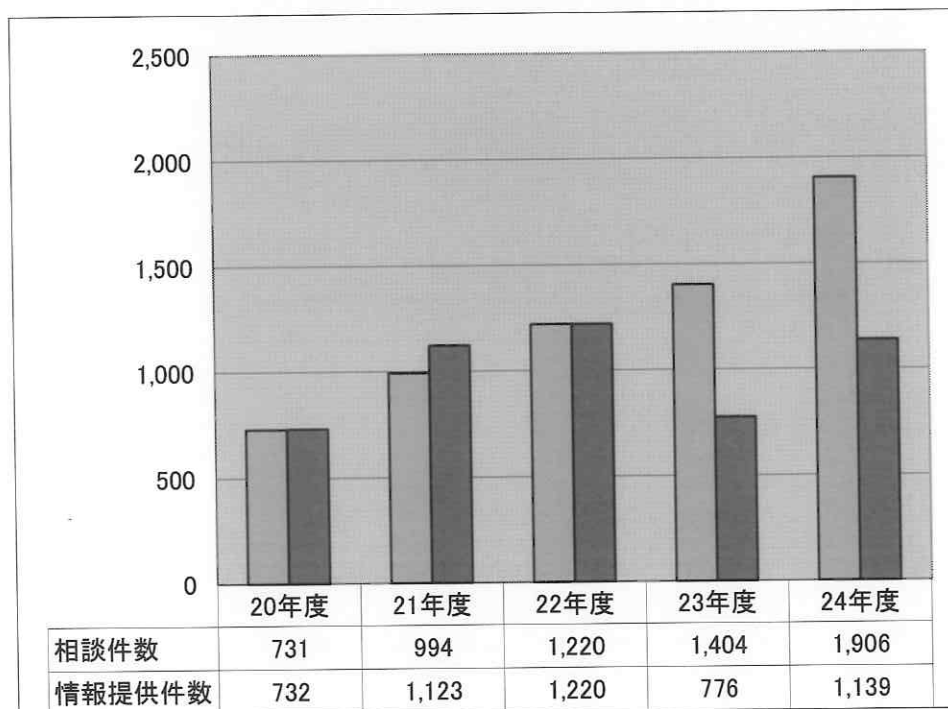
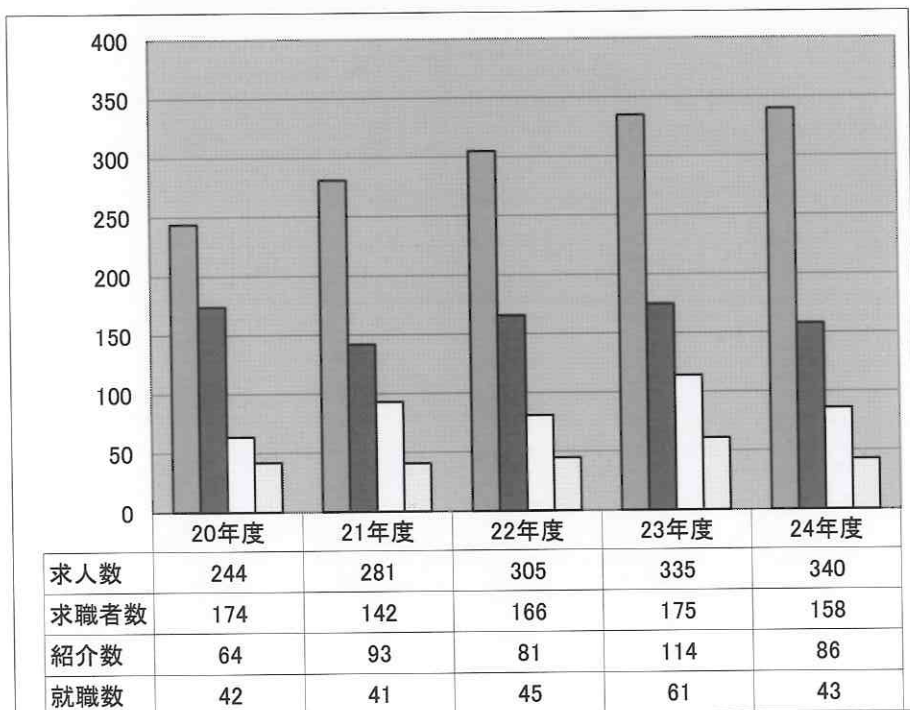
今後少子高齢化が進行する中で、介護・福祉部門は人材確保と介護現場の定着を目的に取り組んでいきたい。

【福祉人材養成事業】介護福祉士模擬試験開催 2回 69名受験 介護支援専門員模擬試験開催 1回 21名受験

介護支援専門員受験対策講座 2回 延べ45名受講

【啓発広報事業】社協だより掲載（3市） 行政広報掲載（2市1町） 就職情報誌『週刊ザウルス』掲載 2回 週刊ジョブ高知 2回

【求人情報】 延べ294事業所 【日曜相談・移動相談】 21回 参加者86名 【運営委員会開催】 1回



②総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

福祉介護人材マッチング支援事業（福祉人材バンク経理区分）

〈職員1名兼務〉

《県社協受託金 2,650,500円 市補助金収入 1,563,000円 取崩し収入1,560,000円 決算額5,773,500円》

福祉・介護マッチング機能強化事業は施設・事業所における詳細な求人ニーズの把握と求職者の適性の確認、就業後の適正なフォローアップ、学校との連携等を一体的に実施することなどにより、福祉・介護人材の円滑な参入と確実な定着を図ることを目的にする。学校訪問では、学校でのセミナーや職場体験などの依頼を行い、高校、中学校、小学校を訪問した。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	備考
施設訪問件数(件)	113	47	56	
学校訪問件数(件)			8	
訪問日数(日)	35	13	15	
セミナー開催(回)	12	12	11	ハローワーク
セミナー開催(回)			3	学校
参加人数(人)	105	146	168	
福祉職場体験者(人)	12	8	6	
申込者(人)	14	10	9	
複数事業所連携事業 (ユニット数)	2	1		1ユニット=5事業所

③ボランティアセンター等の充実と福祉教育の推進

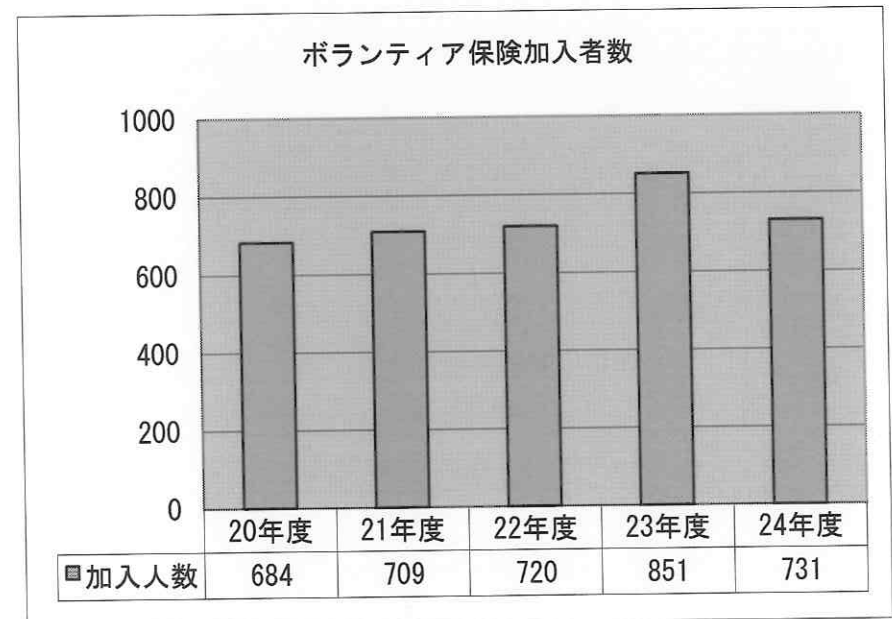
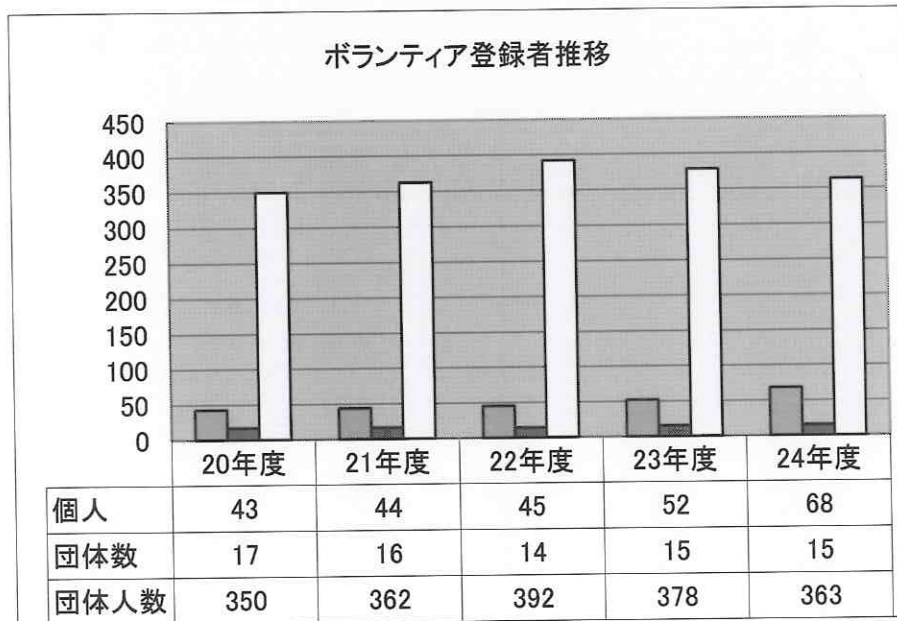
ボランティアセンター事業(法人運営経理区分)

《 市補助金収入 6,097,639円 会費収入 120,000円 共同募金配分金 30,000円 決算額 6,247,639円 》〈職員1名〉

今年度当初は予定していなかったが、中学生の夏休み期間中に東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県石巻市と東松島市へ訪問し交流事業を行った。実際に自分の目で見た中学生は言葉にすることができず、また交流の中では涙を流すなど訪問しないと解らなかった状況に人ごとではないことを痛感した。訪問して終わりではなく、学校や地域に広めていくために自分たちで発表するなど事後学習もすっかりできたことは来たる南海大地震に備えるいいきっかけになった。尚、この事業は、福祉基金を活用した事業であり、定員15名に対して50名の申し込みがあり感謝している。

また、傾聴ボランティア養成講座を開催し、一般参加者を含め25名が傾聴の知識と実技を身につけ、新たなボランティアとしての一步を踏み出すきっかけづくりができ翌年度につなぐことができた。

- ・東日本大震災被災地訪問事業(宮城県石巻市・東松島市)
H24/7/30～8/2 中学生15名、職員5名
- ・傾聴ボランティア養成講座 H25/2/23



※配食サービス・朗読サークルボランティアは除く

③ボランティアセンター等の充実と福祉教育の推進

福祉教育の推進(共同募金配分金経理区分)

《 福祉推進校助成金 会費収入 20,000円 共同募金配分金 230,000円 決算額 250,000円 》

市内の小・中学校からの依頼に基づき各種体験学習を通して福祉教育に携わる機会が年々多くなり定着する中、打合せ時に事後学習について担任より聞き取り、今後子どもたちをどのように導くのか方向性について聞き出すことができた。

また、新しいプログラム(福祉・介護セミナー)を取り入れ、今後の福祉教育の幅を広げていくことも視野に入れ取り組んできた。

さらに、学校と地域との結びつきの深い事業に対し、助成交付要綱に基づき5校への事業助成を行うとともに事業見学も実施し、児童生徒及び教職員との交流を深めることができた。

平成24年度助成校(5校)

中村南小・西土佐小・下田中・後川中・大川筋中

☆ 24年度助成校

学校名	車椅子体験学習等				
	実施日	内容	学年	人数	備考
☆下田中学校	H24.4.27	高齢者疑似体験 車椅子体験	1年	13名	
☆中村南小学校	H24.6.20	高齢者疑似体験 車椅子体験	3年	34名	
	H24.10.15	アイマスク体験			
☆西土佐小学校	H25.1.31	車椅子体験	3年	22名	
☆後川中学校	H25.2.2	福祉・介護セミナー	1年	8名	
	H25.2.22	車椅子体験			

学校名	車椅子体験学習等				
	実施日	内容	学年	人数	備考
☆大川筋中学校	H25.3.11	福祉・介護セミナー	全学年	12名	
八束中学校	H24.4.27	手話体験	全学年	37名	
川登小学校	H24.6.11	高齢者疑似体験	5~6年	7名	
	H24.10.11	車椅子体験			
	H24.11.19	アイマスク体験			
	H24.12.6	手話体験			
大用中学校	H24.6.22	高齢者疑似体験	全学年	8名	
		車椅子体験			
南郷小学校	H24.7.3	高齢者疑似体験	4年	9名	黒潮町社協と
	H24.10.19	高齢者疑似体験			
中村小学校	H24.12.18	車椅子体験	5年	51名	
		H24.11.6	アイマスク体験	3年	42名
田野川小学校	H24.10.22	高齢者疑似体験 車椅子体験	3~6年	8名	
具同小学校	H24.11.2	高齢者疑似体験	4年	90名	
		車椅子体験			
	H25.1.15	手話体験			
蕨岡中学校	H24.11.25	高齢者疑似体験	全学年	27名	
利岡小学校	H24.12.4	車椅子体験	3~4年	13名	
	H25.1.29	高齢者疑似体験			
大用小学校	H24.12.10	高齢者疑似体験	5~6年	16名	
		車椅子体験	3~4年	9名	
下田小学校	H24.12.17	車椅子体験	4年	8名	
竹島小学校	H25.1.28	高齢者疑似体験	5~6年	19名	
東山小学校	H25.2.12	高齢者疑似体験	4年	48名	
	H25.2.13	アイマスク体験			
計				404名	

④介護保険事業等在宅福祉サービスの整備

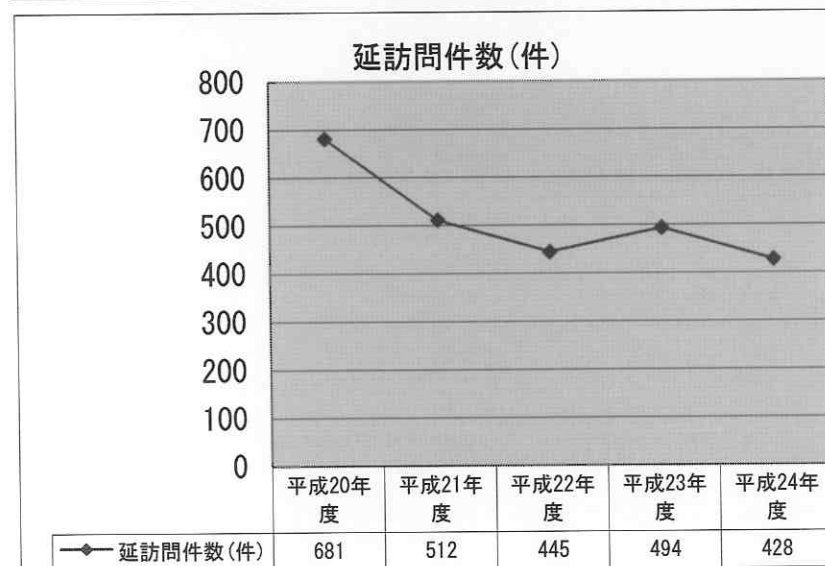
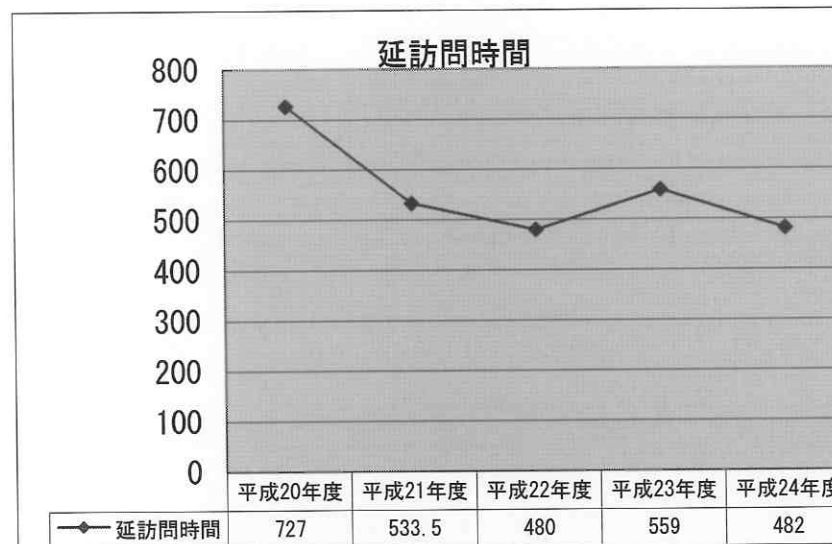
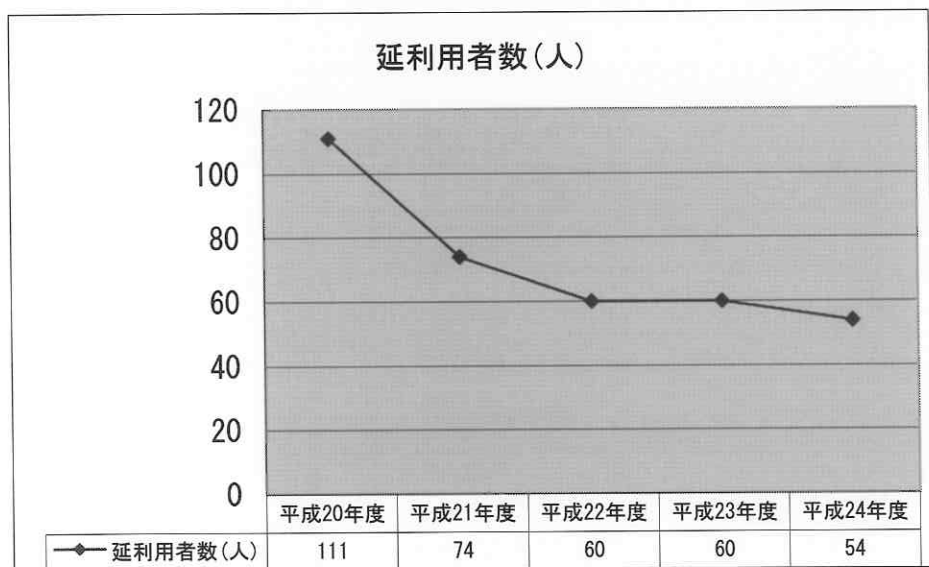
日常援護サービス事業(居宅介護等事業経理区分)

〈職員1名 契約1名 パート13名 訪問介護事業・障害者居宅介護等事業との兼務者有〉

《市受託金決算額 1,060,400円》

要介護認定の結果、非該当になったが援助が必要な方に対して、市から委託を受けホームヘルパーを派遣し在宅生活を支えていくことを目的に、サービスの提供を行った。

日常援護サービスから、介護予防へ移行1名と、入院1名があり、収入減となっている。



④介護保険事業等在宅福祉サービスの整備

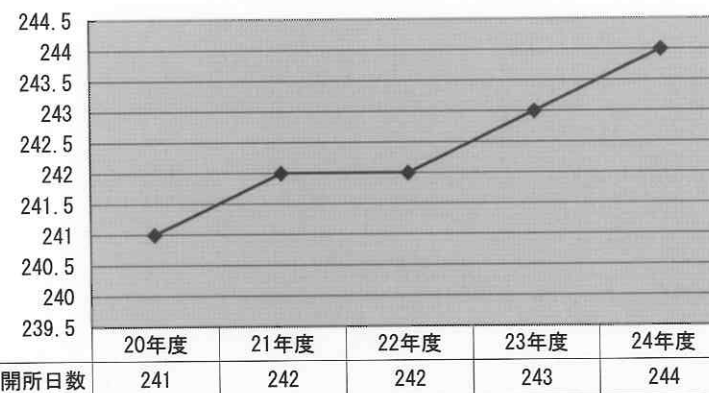
高齢者はつつデイサービス事業（居宅介護等事業経理区分）

〈職員1名 臨時3名〉

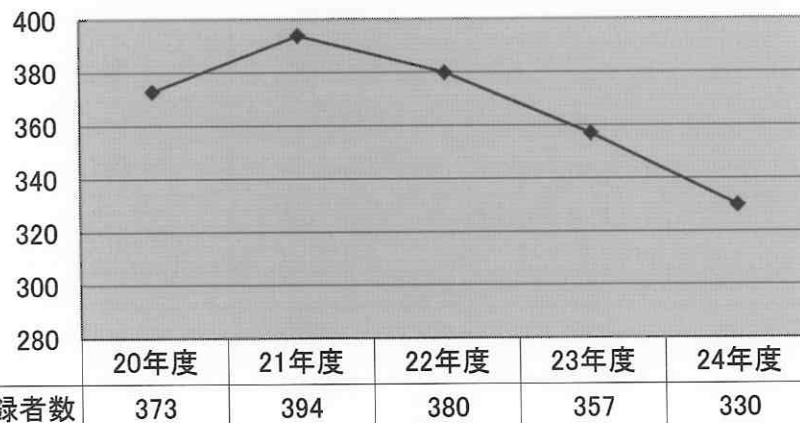
《市受託金 11,787,400円 市補助金 7,692,000円 利用料 2,124,000円 雑収入 7,500円 前期繰越金 10,621円 決算額 21,621,521円》

介護保険非該当の利用者（75歳以上の高齢者又は65歳以上の独居高齢者）に対し、健康チェックや創作活動、レクリエーション、日常必需品の買出などのサービスを提供し、高齢者が楽しく生きがいをもてるよう事業を実施した。利用者の延人数は昨年より下まわったが、1日を楽しく過ごしてもらうよう努め、「ここに来るのが楽しみ」「今日も楽しかった」等の声をたくさん聞くことができ、また、小、中学生との交流会では楽しいひとときを過ごし喜んでいた。介護予防事業は、地区のふれあい等に参加している利用者も多く、体力測定においても測定数値が向上している利用者が見られた。

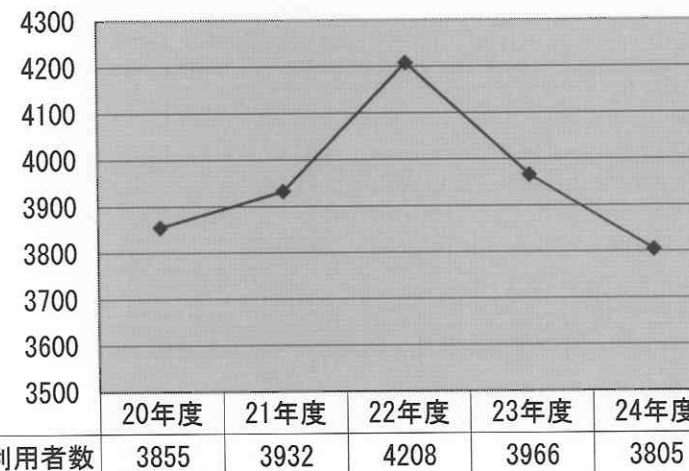
開所日数



登録者数



利用者数



④介護保険事業等在宅福祉サービスの整備

二次予防高齢者筋力アップ事業(居宅介護等事業経理区分) <他業務と兼務 職員1名 パート2名>

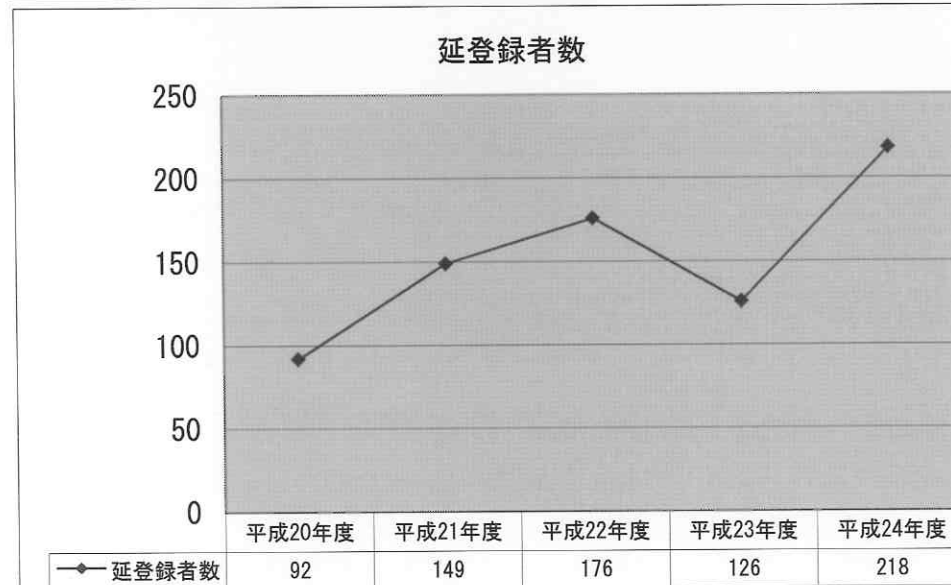
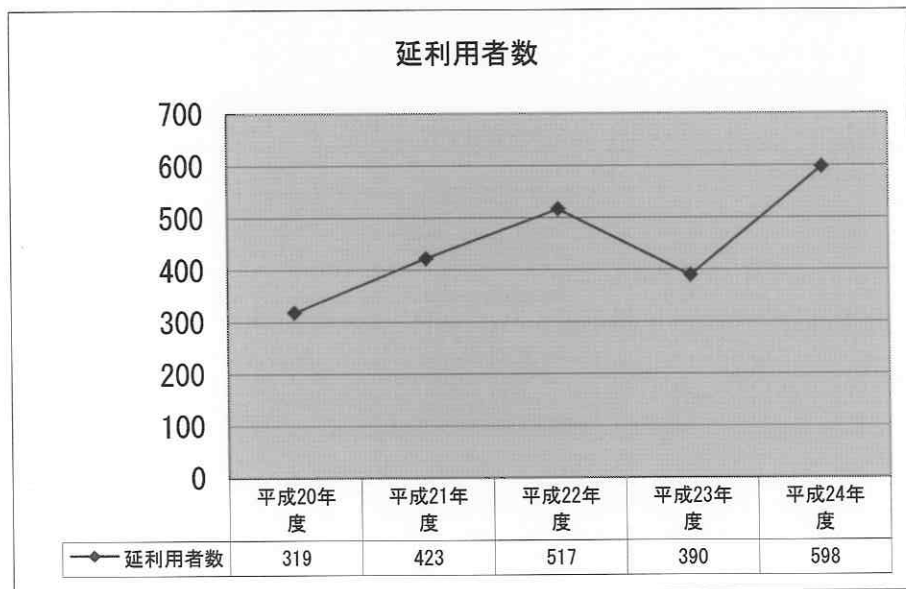
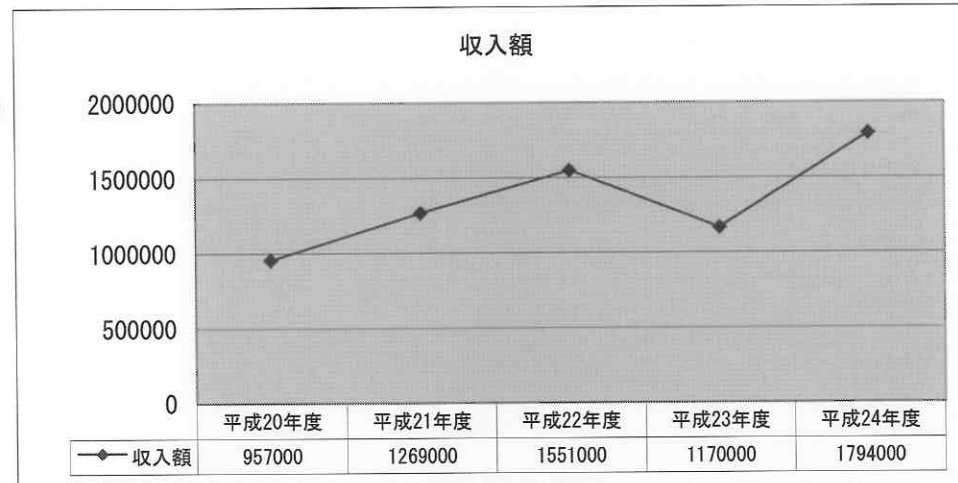
《市受託金決算額 1,794,000 円》

対象者は二次予防高齢者、一次予防高齢者と決定された方のうち、運動器の機能が低下した方、若しくはそのおそれがある方で、運動器の機能向上をはかる事を目的とし、週に1回実施した。(12月からは、週2回(月・木))

また、「筋力アップ体操」と合わせて口腔機能の向上に向けた「かみかみ百歳体操」やレクリエーション等も実施している。

参加者からは「筋力が向上してきた、何事にもやる気がでてきたなど、終了しても継続して利用したい等の声」が多数聞かれた。

今後、教室を終了した高齢者の継続的な筋力アップ体操や、かみかみ百歳体操の必要性を考慮し、次年度は健康福祉委員会につなげていきたい。



④介護保険事業等在宅福祉サービスの整備

指定訪問介護事業（居宅介護等事業経理区分）

〈職員1名 契約1名 パート13名 障害者居宅介護等事業・日常援護サービス事業との兼務者

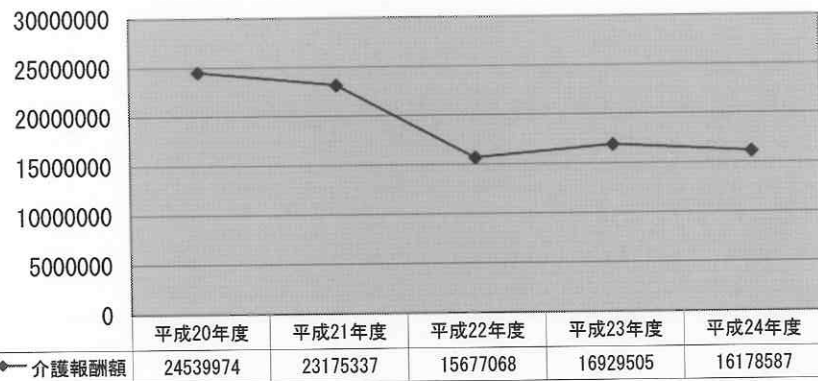
《介護報酬 17,615,270円 中山間支援補助金 166,930円 事業収入等 31,017円 前期繰越金 9,635円 決算額 17,822,852円》

要介護者や要支援者に対してケアマネによるサービス計画の下、入浴、排泄、食事等の介助その他日常生活上のサービス援助を行う。

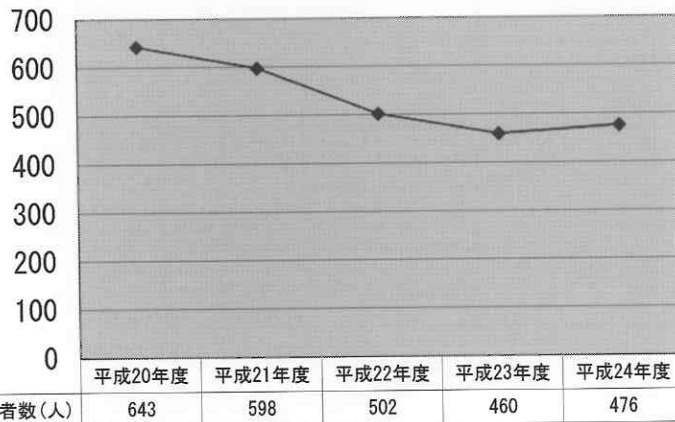
新規契約者が介護給付8名、予防給付7名、計15名いたので、延利用者数、訪問件数は増えているが、身体介護の利用者の入院等により、収入は若干減少となっている。

尚、今年度から開始した介護保険・居宅介護給付外有償サービスは、問合せなどはあったがサービス提供には至っていない。

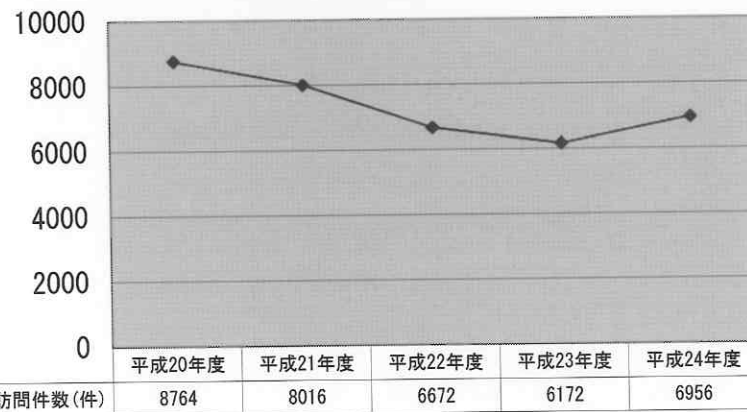
介護報酬額



延利用者数(人)



延訪問件数(件)



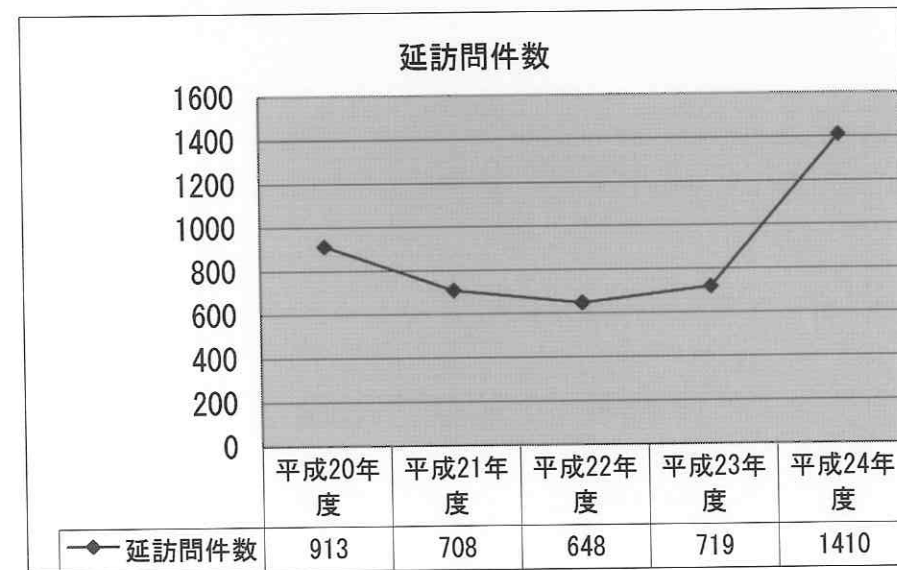
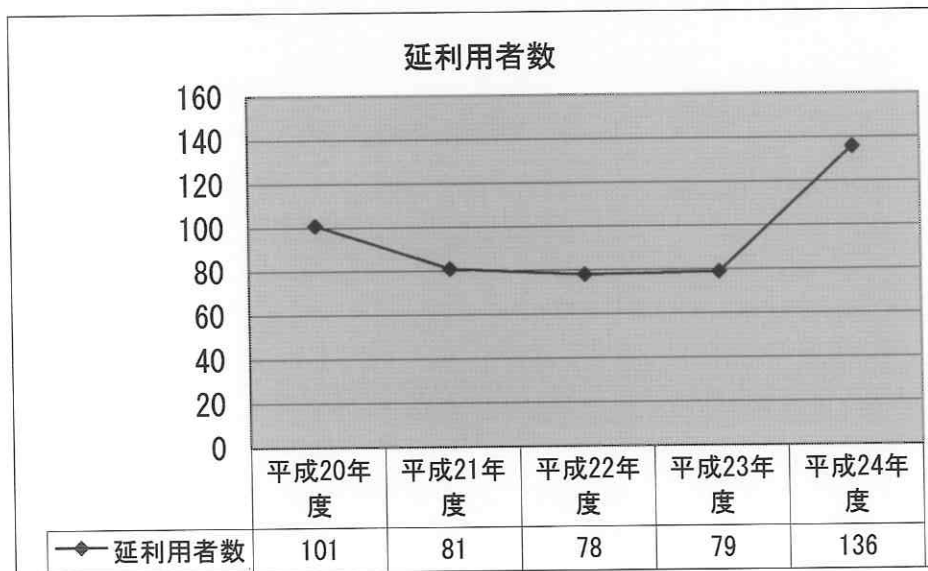
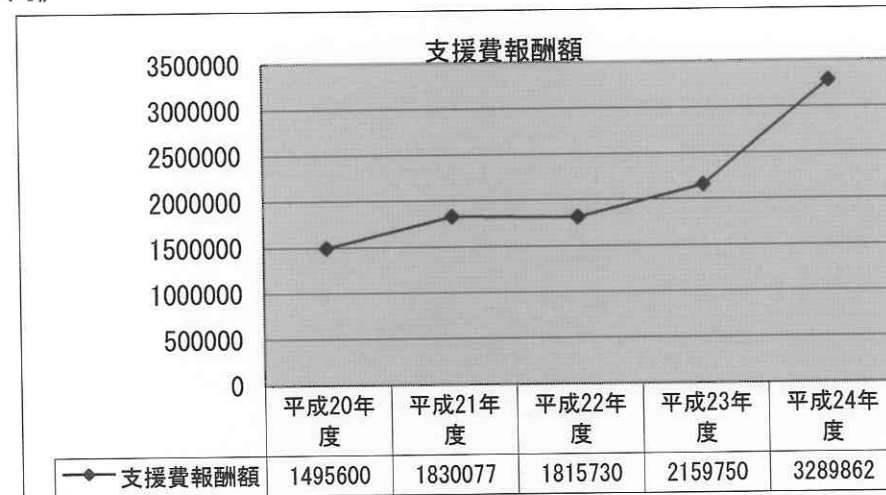
④介護保険事業等在宅福祉サービスの整備

障害者居宅介護等事業(居宅介護等事業経理区分)

〈職員1名 契約1名 パート13名 訪問介護事業・日常援護サービス事業との兼務者有〉
 《介護報酬 421,385円 自立支援費報酬 3,289,862円 決算額 3,711,247円》

障害者自立支援法(現総合支援法)に基づき、居宅支援の決定を受けた利用者に対し、入浴、排泄、食事の介護、調理、掃除等の家事、生活等に関する相談及び助言、外出介助、その他生活全般にわたる生活支援を行なっている。

今年度は、新規契約が3名あり、その中でも身体介護の利用者がいたので前年度より収入増となっている。



④介護保険事業等在宅福祉サービスの整備

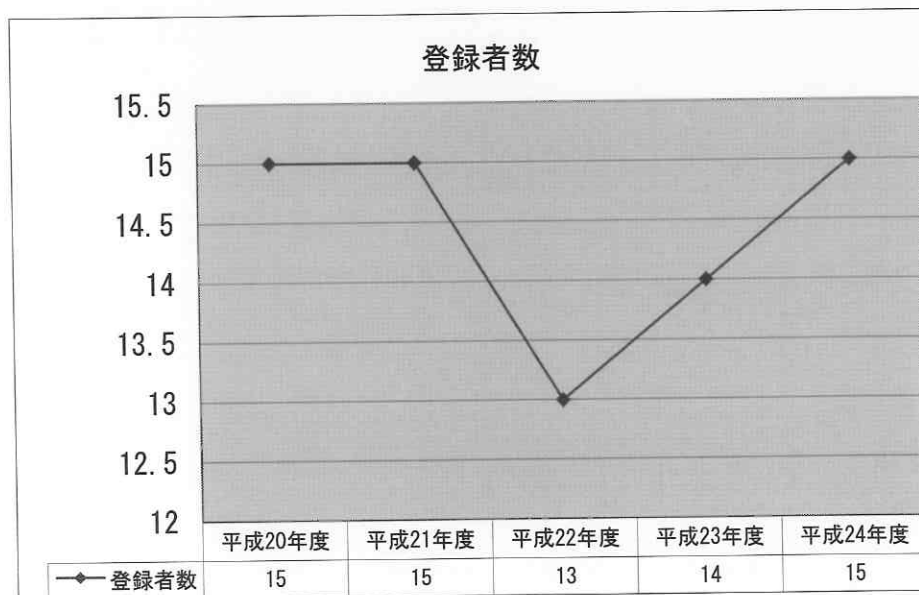
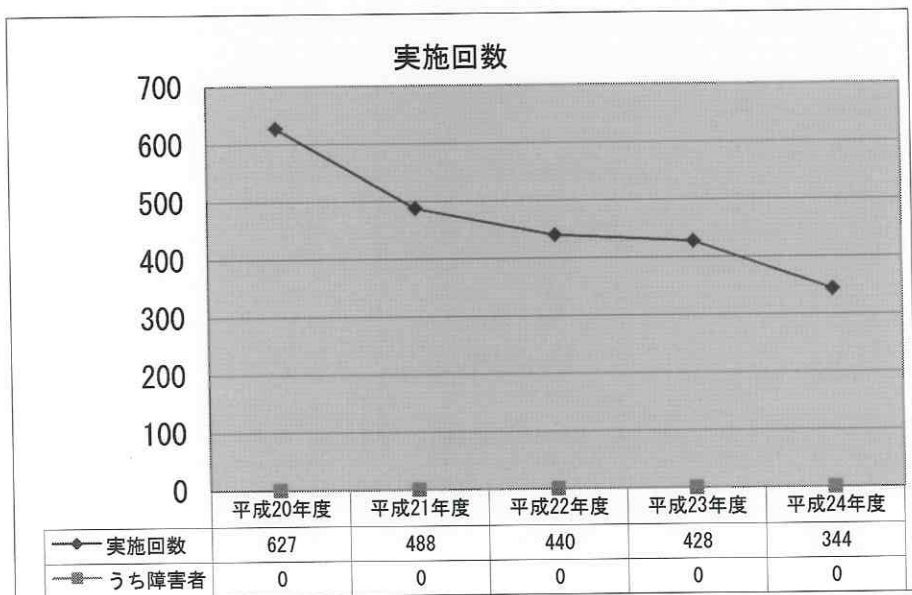
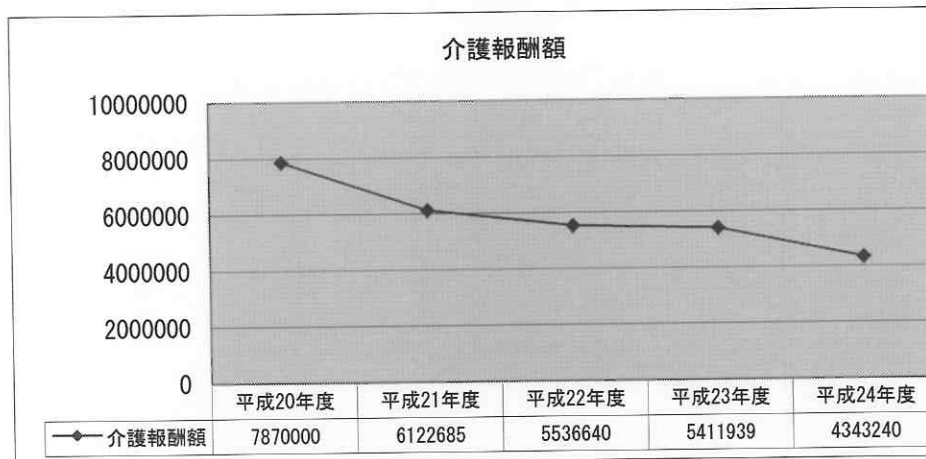
訪問入浴事業(居宅介護等事業経理区分)

〈職員1名 パート2名〉

《介護報酬 4,343,240円 中山間補助金 16,070円 経理区分間繰入金収入 618,000円 積立預金取崩 2,253,000円 前期末支払資金残高 4,082円 決算額 7,234,392円》

介護保険の認定を受けた寝たきりの方等に対し入浴サービスを提供し、利用者のみだけではなく、在宅介護されている家族へも配慮し、介護負担が軽減するようなコミュニケーションやサービスの提供にも努めた。

新規契約者は7名いたが、ターミナルの方が多く解約6名と登録者数に変動は少なかった。しかし、冬期は寒さが厳しく、急変して入院される方が前年度よりも多く実利用者は8名ほどで、収入がより減少した。



④介護保険事業等在宅福祉サービスの整備

訪問調査事業(居宅介護等事業経理区分)

〈職員2名〉

《市受託金収入 8,190,000円 他市町村調査受託金収入 39,830円 経理区分間繰入金収入 1,226,000円
積立預金取崩収入 5,199,000円 前期繰越金 10,574円 決算額 14,665,404円》

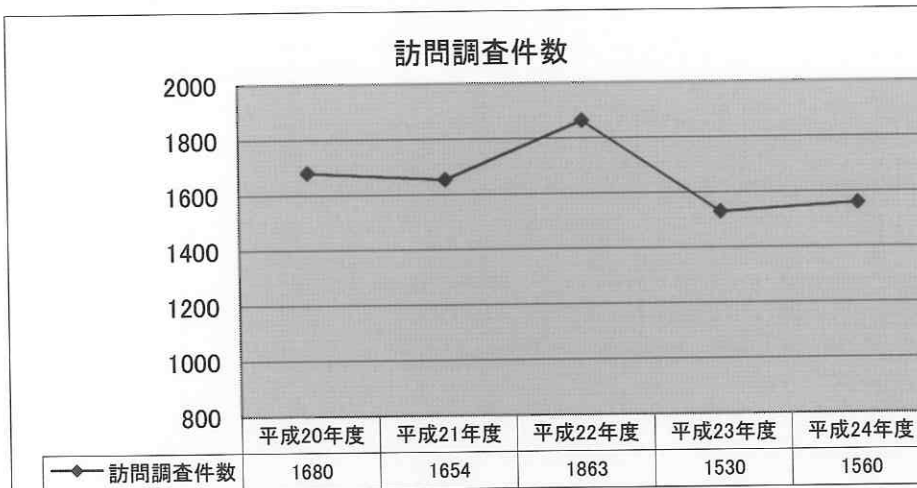
市からの依頼により、被保険者宅等に訪問し、心身の状況や置かれている環境について聞き取り調査を行う。

専属2名の職員体制で、対象者の意向に沿った日程調整を行い、職員同士が場面を振り返り、ばらつきを是正するために助言や情報の共有化を図った。

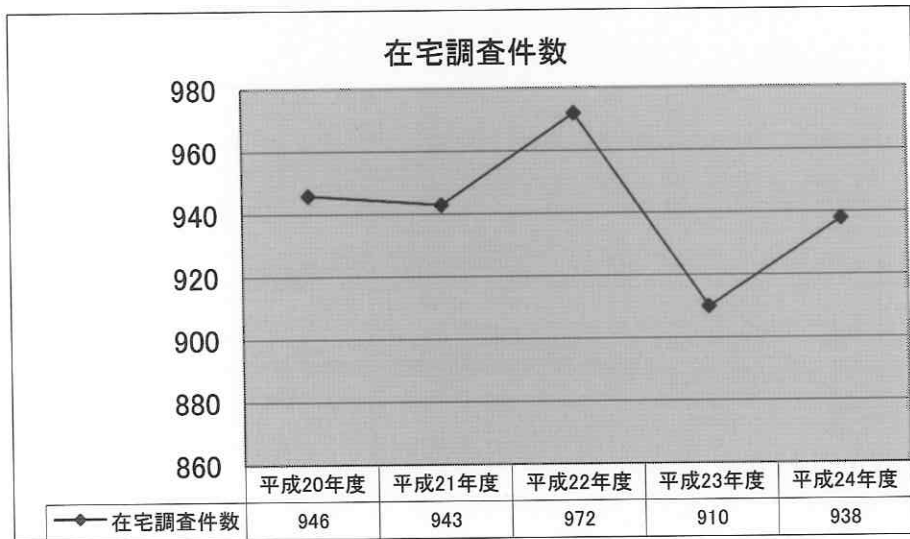
新規と区分変更については、原則市が実施することになっているが、連携しながら迅速かつ適正な実施に努めた。

また、他市町村からの依頼も13件行っている。

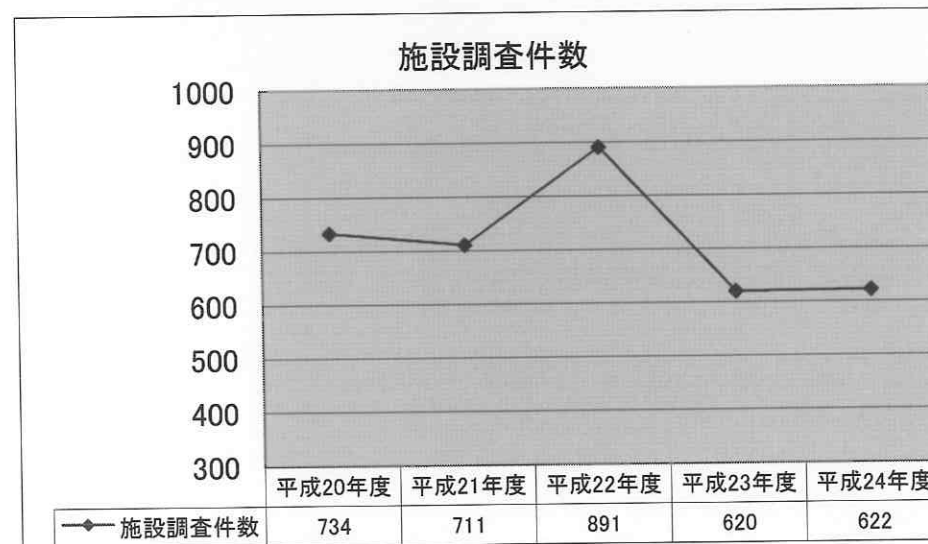
訪問調査件数



在宅調査件数



施設調査件数



④介護保険事業等在宅福祉サービスの整備

障害者支援センター事業

(障害者支援センター事業経理区分)

<職員1名>

《市受託金 5,889,060円 障害程度区分認定調査 556,500円 他市町村認定調査 10,500円 サービス計画報酬 30,750円 決算額 6,486,810円》

在宅の身体、知的、精神障害者宅を訪問し、生活相談に応じたり、関係機関と連絡調整を行う事業を実施。
障害程度区分認定調査を適正に実施し、平成24年度から障害者のサービス計画等の作成も行っている。

